

2015 年度

事業報告書

公益財団法人 NHK 交響楽団

I. はじめに

N響にとって、2015年の音楽面での最大の出来事はパーヴォ・ヤルヴィの首席指揮者への就任であった。N響がどう変わるのか、音楽ファンの大きな期待と関心の中で始まった2015/2016シーズンだったが、首席指揮者として最初の指揮台に立った10月定期公演でのマーラー《交響曲第2番「復活」》から観客の大きな感動と興奮を呼び起こし、N響新時代の到来を告げるものとなった。こうした期待は日本国内だけのものではない。海外の音楽批評家を招聘しての文化庁の調査（注1）では、「おそらく、欧米で私たちが思い描く“世界一流”の楽団の基準に、唯一達しているのがNHK交響楽団だろう」（仏・フィガロ紙 クリスティアン・メルラン）。「パーヴォ・ヤルヴィの首席指揮者就任は、NHK交響楽団を良い方向に導くと確信している。ヤルヴィが楽団にバイタリティをもたらし、聴衆の集中力を高めることだろう」（仏・クラシカ誌 アントワーヌ・ペクール）と語られている。パーヴォ自身もN響の演奏能力を世界に通用するものとして高く評価している。2015年はN響にとって世界に乗り出していく確かな手掛かりをつかんだ年となった。

2015年9月、日中共同主催によるN響の中国・北京での公演が行われた。2014年6月の韓国・ソウルでの公演に続くものだ。今年は6月に台湾公演が、11月ソウル公演が予定されている。来年2～3月にはヨーロッパ・ツアーも計画しており、N響がアジアを代表するオーケストラとしての存在感を世界に示せるよう研鑽を積んでいく。

海外への発信にはインターネットが欠かせない。N響もFacebookやTwitterといったSNSの積極的な活用を始めると共に、「NHKSO.TOKYO」という英語のロゴも作成した。広報の面からも世界を意識した取り組みを進めていく。

N響高輪練習所の1年がかりの大規模リニューアル工事が5月に完成した。N響創立90周年に時期を合わせるように練習環境も大幅に改善された。最大限に活用して“世界一流”を目指して進んでいきたい。

（注1）

文化庁戦略的芸術文化創造推進事業

世界における我が国オーケストラのポジション～検証と発信～（平成26年度・27年度）より

II. 公演活動

2015年度は年間で計108回の公演を行った。

1. 定期公演

NHKホールでの公演をA、Cプログラム、サントリーホールでの公演をBプログラムとし、4月から翌年2月まで（7月、8月を除く）27プログラム、計54公演を実施した。

2015/16シーズン幕開けの9月にはN響名誉指揮者のヘルベルト・ブロムシュテットがベートーヴェン交響曲全曲演奏をスタートさせた。10月は、パーヴォ・ヤルヴィがマーラーの《交響曲第2番「復活」》で指揮台に立ち、新首席指揮者として鮮烈なデビューを飾った。11月は第17回ショパン国際ピアノコンクールで優勝を果たしたばかりのチョ・ソンジンを迎えて、ウラディミール・フェドセーエフの指揮によりショパンの《ピアノ協奏曲第1番》を演奏。12月はN響名誉音楽監督シャルル・デュトワがR・シュトラウスの《楽劇「サロメ」》（演奏会形式）を取り上げ、充実した歌手陣と共にドラマチックな舞台を展開した。年明けの1月には期待の若手日本人指揮者、山田和樹がN響定期に初登場。ドビュッシー（カプレ編）《バレエ音楽「おもちゃ箱」》では、語りに女優・松嶋菜々子を起用した。

2月はパーヴォ・ヤルヴィの2015/16シーズン2度目の登場となり、ブルクナー、R・シュトラウスの他、ニルセン《交響曲5番》といった日本の音楽ファンにはあまり馴染みのない作品を取り上げて、その魅力を伝えることに成功した。2月12日（金）の公演は皇太子殿下が鑑賞された。

2. 定期公演入場者と定期会員（席）数の状況

2015年度の定期公演入場者の総数は12万5,186人で、2014年度の11万9,280人を6千人近く上回り、目標とした12万人を達成した。NHKホールでのA、Cプログラムで入場者が3,000人を超えたのは36公演中9公演（前年度は6公演）。このうちパーヴォ・ヤルヴィ指揮が5公演（注1）、ウラディミール・フェドセーエフ指揮が4公演（注2）だった。この様に、パーヴォ・ヤルヴィの新首席指揮者就任が入場者数の増加にも寄与した。サントリーホールでのBプログラムは18公演中1公演を除いてチケットが完売となり、2014年度に引き続き、公演1日目については放送収録用のカメラ席（使用しない場合）の当日券販売を行った。

定期会員（席）数は、2015年度は年間会員・シーズン会員合わせて9,560人（うち年間会員は8,079人）で、2014年度の9,428人（同8,067人）に比べて

増加した（注 3）。定期会員数は漸減傾向が続いてきたが、2 シーズン連続しての増加となった。

（注 1）10月 A プロ 1 日目・2 日目 マーラー 《交響曲第 2 番「復活」》

10月 C プロ 1 日目・2 日目 ショスタコーヴィチ 《ヴァイオリン協奏曲第 1 番》他

2月 C プロ 2 日目 ニルセン 《交響曲第 5 番》他

（注 2）4月 C プロ 1 日目・2 日目 リムスキー・コルサコフ 《交響組曲「シェラザード」》他

11月 C プロ 1 日目・2 日目 ショパン 《ピアノ協奏曲第 1 番》他

（注 3）2014/2015 と 2015/2016 のシーズン終了時の比較

3. 特別公演

（1）ミュージック・トゥモロー2015

優れた現代作品を取り上げる公演。広く聴衆に知らしめ、第 63 回尾高賞受賞曲である藤倉大《Rare Gravity》(2013)の他、N響とニューヨーク・フィルハーモニック等の共同委嘱作品で同じく藤倉大作曲の《インフィニット・ストリング》(2014)などが日本初演された。指揮はパスカル・ロフェ。(6月 23 日東京オペラシティ・コンサートホール)

（2）N響・夏 2015

ヴァイオリンのソリストにベルリン・フィルハーモニー管弦楽団第 1 コンサートマスターの樫本大進、チェロに樫本と息の合ったクラウディオ・ボルケスを招いてブラームスの名曲を披露。指揮はマイケル・フランシス。(7月 17 日)

（3）松山定期演奏会

愛媛県内の多くの企業の協賛を得て毎年行っている公演。演奏する曲目は N響・夏と同じ (7月 19 日愛媛県県民文化会館)

（4）N響ほっとコンサート

夏休みの期間中に実施する青少年、ファミリー向けのコンサート。2015 年は映画音楽を特集。指揮は山下一史。May J. もゲストに登場し、N響をバックに映画「アナと雪の女王」で大ヒットした《Let it go》などを披露。クラシックにあまり馴染みのない人達にもオーケストラを楽しめるものとなった。例年同様、ロビーに楽員たちによる「楽器体験コーナー」を設置。子どもたちの長い列が出来た。(8月 2 日 NHK ホール)

（5）N響 Special Concert

夏休み最後の思い出にしてもらおうと 2015 年から新しく始めたコンサート。指揮はフィンランド出身のヨーン・ストルゴーズ。ソリストはアリス・沙良・オットでベートーヴェンの《ピアノ協奏曲第 3 番》や《交響曲第 5 番「運命」》

など、よく知られた名曲を披露した（注。（8月21日サントリーホール）

(6) 「第九」公演

年末恒例のベートーヴェンの《交響曲第9番》。首席指揮者パーヴォ・ヤルヴィの指揮で行った。

（12月22日、23日、26日NHKホール、27日サントリーホール）

4. NHK音楽祭

N響は指揮パーヴォ・ヤルヴィで登場。ソリストにフランスのジャン・イヴ・ディポーデを迎えてラヴェル《ピアノ協奏曲》、ベルリオーズ《幻想交響曲》というフランスものを取り上げた。（10月8日）

5. 地方公演

NHKとの共催事業。2015年度は青森、函館、旭川、北見、札幌、大阪、高松、鳴門（徳島県）、高知、以上の9都市で実施。

6. 契約公演

2015年度は4月の東京・春・音楽祭でのワーグナーの楽劇『ニーベルングの指環』第1日《ワルキューレ》に出演した。（4月4、7日東京文化会館大ホール）この他、オーチャードホール定期公演、横浜定期公演、足利定期公演、いわき定期公演、名古屋定期公演など、合わせて34公演を実施した。

7. 海外での公演

10月に北京公演を実施した。日中文化交流の一環として両国の関係団体・企業等の共催により実現したもの。指揮は現代中国を代表する作曲家でもあるタン・ドゥン、ソリストはヴァイオリニストの諏訪内晶子が務めた。プログラムは現代曲とクラシックの名曲の組み合わせで、タン・ドゥン自身が作曲した作品はスマートフォンを使って鳥の鳴き声を表現する部分もあり、会場には驚きが広まった。北京公演の様子はテレビ収録され、NHKのBSプレミアムで放送された。（10月3日北京・国家大劇院音楽庁）

III. 放送への協力

放送出演、公開演奏の放送等によりNHKの業務に協力している。

2日間行われる各定期公演の初日はNHK-FMで毎回生放送された他、テレビ収録されて後日Eテレ「クラシック音楽館」で放送されている。「クラシック音楽館」では定期公演に加えて、随時、N響メンバーによる室内楽も放送してい

る。2015 年度には、この他、大河ドラマ「真田丸」や放送開始 90 周年を記念した大河ファンタジー「精霊の守り人」、NHK スペシャル「新・映像の世紀」、大阪放送局制作の特別番組「吉野の桜」といった大型番組のテーマ音楽、挿入曲の演奏を行った他、「名曲アルバム」の収録を行った。また、10 月の北京公演の様も収録されて BS プレミアムで放送された。12 月には年末の「第九」公演の前に、パーヴォ・ヤルヴィが総合テレビ「あさイチ」のゲストとして生出演し、「第九」の聴きどころなどを語った。3 月には NHK 音楽祭特別企画及び N 響創立 90 周年記念として「N 響 CLASSICS×POPS with SPECIAL ARTISTS」と銘打った公開番組収録（4 月に総合テレビで放送）を NHK ホールで行った。

この他、放送記念日の式典では毎年演奏を行っている。2015 年度の放送記念日には N 響名誉指揮者ヘルベルト・ブロムシュテット氏に放送文化賞が授与された。

IV. 公演収入

2015 年度の定期公演のチケット収入は、一回券の売れ行きが極めて好調だったことから目標を上回り（注 1）、前年・2014 年度に比べて 2 千 4 百万円、率にして 4% の増収となった。この要因としては、パーヴォ・ヤルヴィの首席指揮者就任の効果が最も大きかったと思われるが、一回券のチケットをインターネットで 24 時間いつでも購入できる「WEB チケット N 響」の導入による利便性の向上も売上げの増加に寄与した。

また、定期公演の中でも、12 月のシャルル・デュトワによる《楽劇「サロメ」》のような大掛かりなプログラムについては、一回券チケット料金の差異化を行った他、特別公演でもパーヴォ・ヤルヴィ指揮による年末の「第九」公演のチケット料金の見直しを行った。

（注 1）2015 年度	40,014 枚（月平均 4,446 枚）
2014 年度	35,961 枚（月平均 3,995 枚）
2013 年度	32,762 枚（月平均 3,640 枚）
2012 年度	28,367 枚（月平均 3,151 枚）

V. 特別支援・賛助会員

2015 年度末の賛助会員数（1 口・50 万円、個人も含む）については、192 社・288 口で、2014 年度末より 2 社・12 口（入会が 9 社・20 口、退会が 7 社・8

口) 増加した。前々年度が 14 社・14 口減、前年度が 2 社・1 口減だったことと比較すると寄付の状況は好転しているようにも見えるが、企業の経営環境によって入会と退会が一進一退を繰り返しているのが実情である。

VI. 国際化を意識した広報活動

N響ホームページの他、Facebook や Twitter といった SNS の利用を開始し、国内だけではなく海外も意識した訴求力のある PR を展開した。また、英語のロゴ「NHKSO.TOKYO」を新たに作成して東京に本拠を置く日本を代表するオーケストラとしての名前の浸透に努めた。さらに、機関誌「フィルハーモニー」の英文の紹介ページを拡充し、定期公演に来場する外国人にもコンサートをより楽しんでもらえるような工夫を行った。

また、9 月のパーヴォ・ヤルヴィの首席指揮者就任を前に、地下鉄・表参道駅の構内で大掛かりなポスター掲示を行った。

VII. 社会貢献への取り組み

1. 室内楽を活用したアウトリーチ

(1) 学校コンサート

NHK との共催による「NHK こども音楽クラブ」の他、地方での公演に合わせて実施。東日本大震災などの被災地支援を含めて全国の 25 の小・中学校を訪問、コンサートを行った。

(2) 病院コンサート

2015 年度は東京大学医科学研究所附属病院（東京・港区）、国立がん研究センター中央病院（東京・中央区）で実施した。

(3) その他

N響の高輪練習所がリニューアルされたのを機会に、近くの保育園の子供たちや自治会の人たちを招いて、お披露目のコンサートを行った。

2. 定期公演等への留学生招待

東京大学の協力を得て、首都圏の大学で学ぶ外国人留学生を招待。2015 年度は 16 の定期公演、MUSIC TOMORROW で実施。45 の大学から 57 カ国・815 人が来場した。

3. N響アカデミー

プロのオーケストラ楽員を目指す若手音楽家の育成を目的に 2003 年にスタ

ートした事業。

ヴァイオリン 3 名、ヴィオラ 1 名が在籍しており（3 月 31 日現在）、楽員によるレッスンや演奏会への出演などの研鑽を積んでいる。

4. 歴史的資料の保存

N響の創立以来の機関誌、公演パンフレット、ポスター、写真等の歴史的資料を演奏会記録と合わせて統一的に整理する作業を開始した。今後、創立 100 周年に向けてデジタル・アーカイブ化を進める計画である。

VIII. 顕彰の実施

1. 尾高賞

故・尾高尚忠氏の功績をたたえ、邦人音楽家による優れたオーケストラ作品を顕彰するために 1952 年（昭和 27 年）に設けられた作曲賞。第 64 回となる 2015 年度は権代敦彦氏の《オーケストラのための Vice Versa—逆も真なり》（2015）が選ばれた。授賞作品は 2016 年 6 月に開催される「MUSIC TOMORROW 2016」で演奏される。また、今回から贈呈式についても公演に合わせて行われることになった。

2. 有馬賞

故・有馬大五郎氏（元・N響副理事長）の偉業を記念するために 1981 年（昭和 56 年）に設けられた。N響の発展に功績のあった関係者、関係団体、職員が授賞の対象。2015 年度は、愛知県芸術劇場（公益財団法人 愛知県文化振興事業団）とピアニストの小山実稚恵さんに授与された。

IX. 経営管理

1. 経費削減への取り組み

2014 年度は為替が円安に進んだことから、2015 年度はユーロによる外貨預金枠を設定した。これにより海外から招聘する指揮者、ソリストに対する出演料支払いの際に発生する為替変動リスクを回避する措置を取った。また、航空運賃やホテル代についても都度の交渉によって極力削減するように務めた。

これらの施策とともに、毎月月次の予算施行状況を管理職会で報告・議論することなどにより、年度を通じて経費削減への取り組みを行った。

2. コンプライアンスの強化

NHKグループ全体の取り組みに合わせて、監事監査規程や内部監査規程の整備、音楽プロダクションとの取引を抽出した出金管理プロセスの点検、与信管理・債権管理の事務処理要領の整備等を実施した。また、ハラスメント防止への意識を高めるための注意喚起を行った。

X. 高輪練習所の改修・整備

N響の高輪練習所（兼事務所）は、2014年7月から全面的なリニューアル工事が行われて予定通り2015年5月に完成した。音響、空調、楽員用トイレの増設など練習環境が著しく改善された。今後も必要な改良を加えながら有効に活用し、オーケストラの演奏能力の向上に資するべく努めていく。これに合わせて、8月からは、それまでNHKホールにあったN響ガイドを高輪練習所内に移転して一体化による業務運営の円滑化を図った。

以上

【資料】演奏活動

公 演	年間公演回数	年間入場者数	内 容
定期公演	54回	125,186人	A定期(18回) B定期(18回) C定期(18回)
特別公演	9回	23,415人	Music Tomorrow、N響「夏」、松 山定期演奏会、ほっとコンサート、 N響 Special Concert、第九
地方公演	10回	16,010人	青森、函館、旭川、北見、札幌、大阪、 香川、鳴門、高知、NHK音楽祭
契約公演	35回	—	東京春、オーチャード、名古屋、いわ き、横浜、萩、大宮、福井、郡山、草 加、所沢、足利、福岡 等
放送演奏	7回	—	大河ドラマ収録、放送記念日、名曲ア ルバム、新・映像の世紀、精霊の守り 人、吉野の桜、公開番組

IX. 法人の概況

(1) 設立年月日

1942年4月27日

1926年10月5日 「新交響楽団」(任意団体) 設立

1942年4月27日 「財団法人 日本交響楽団」 設立

1951年8月1日 「財団法人 NHK交響楽団」に改称

2010年4月1日 「公益財団法人 NHK交響楽団」 設立

(2) 目的

交響管弦楽により、わが国音楽芸術の向上発展を図り、その社会文化使命を達成することをもって目的とする。

(3) 事業内容

- 1) 放送演奏
- 2) 公開演奏
- 3) 演奏に必要な研究ならびに施設の運営
- 4) 機関雑誌の発行
- 5) その目的を達成するために必要な事業

(4) 所管官庁

内閣府

(5) 会員状況 (2016年3月31日現在)

- 1) 定期会員 9,560人 (年間会員およびシーズン会員合計)
- 2) 賛助会員 192社 288口 (一口50万円)

(6) 特別支援・協力企業

1) 特別支援企業

岩谷産業株式会社、三菱地所株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社みずほ銀行、公益財団法人渋谷育英会

2) 特別協力企業

BMWジャパン、ルフトハンザ ドイツ航空会社、ユナイテッド航空会社、全日本空輸株式会社、株式会社松尾楽器商会、ヤマハ株式会社、株式会社パレスホテル

(7) 事務所・支部所在地

1) 事務所・練習場・N響ガイド (入場券販売業務)

東京都港区高輪 2-16-49

X. 処務の概況

(1) 理事・監事および評議員に関する事項

1) 理事・監事

(2016年3月31日現在)

役 職	氏 名	担当職務・現職
理 事 長	木田 幸紀	
常務理事	森 茂雄	演奏制作・事業広報・経理総務
理 事	相川 直樹	慶應義塾大学 名誉教授
理 事	伊藤 京子	元 日本演奏連盟 理事長
理 事	岡田 知之	洗足学園音楽大学 名誉教授
理 事	木村 恵司	三菱地所 取締役会長
理 事	斉藤 邦彦	民間外交推進協会 顧問
理 事	銭谷 眞美	東京国立博物館長
理 事	毛利 衛	日本科学未来館 館長、宇宙飛行士
監 事	井上 樹彦	日本放送協会 理事
監 事	酒井 秀晃	みずほ銀行 営業第十八部長

2) 評議員

(2016年3月31日現在)

役 職	氏 名	現 職
評 議 員	浅谷 友一郎	NHK厚生文化事業団 理事長
評 議 員	今井 環	NHKエンタープライズ 代表取締役社長
評 議 員	江頭 敏明	三井住友海上火災保険 取締役常任顧問(4/1)
評 議 員	海老澤 敏	国立音楽大学 名誉教授
評 議 員	久保田 啓一	NHKアイテック 代表取締役社長
評 議 員	小泉 公二	NHK出版 代表取締役社長
評 議 員	檀 ふみ	女優
評 議 員	長岡 實	資本市場研究会 顧問
評 議 員	前田 昭雄	上野学園大学 特別顧問
評 議 員	初井 勝人	日本放送協会 会長
評 議 員	山口 均	アルプスカード 代表取締役社長

(2) 理事・監事および評議員の異動に関する事項

区 分	年 月 日	退 任	新 任
理 事	2015年3月31日	福澤 武	
〃	2015年4月1日		木村 恵司
常務理事	2015年10月15日	杉浦 晃(死亡)	
監 事	2015年6月18日	吉国 浩二	
〃	2015年6月18日		井上 樹彦
評 議 員	2015年6月19日	溝口 明秀	
〃	2015年7月31日		小泉 公二

(3) 職員に関する事項

(2016年3月31日現在)

職 種	人 数	平均年齢
楽 員	104人	43.2歳
事務職員	22人	46.6歳
嘱託職員	7人	61.4歳
合計または平均	133人	44.7歳

(4) 会議に関する事項

1) 理事会の開催状況

区 分	年 月 日	議 題
第29回理事会	2015年5月18日	1.理事の選任について
第30回理事会	2015年5月28日	1.業務運営状況報告 2.2014年度事業報告および収支決算 3.第19回評議員会の開催について
第31回理事会	2015年5月28日	1.代表理事1名選定について
第32回理事会	2015年7月14日	1.第20回評議員会の開催について 2.常務理事の報酬について

第33回理事会	2016年2月15日	1.業務運営状況報告 2.2016年度事業計画および収支予算について
---------	------------	---------------------------------------

2) 評議員会の開催状況

区分	年月日	議題
第18回評議員会	2015年5月28日	1.理事の選任について
第19回評議員会	2015年6月18日	1.2014年度事業報告及び収支決算 2.評議員の選任について 3.監事の選任について
第20回評議員会	2015年7月31日	1.評議員の選任
第21回評議員会	2016年2月15日	1.2016年度事業計画および収支予算について

XI. 理事および監事に支払った報酬の額

当事業年度における当財団の理事および監事に対する報酬の内容は、以下のとおり。

対象者	人数	報酬の額
理事	9人	32,263千円
監事	2人	0千円

注1) 上記のうち、非常勤理事7名、非常勤監事2名には、報酬を支払っていない。

注2) 理事の人数は、2015年10月までは10人（うち常勤理事3人）、11月以降は9人（うち常勤理事2人）